**令和５年度**

**高齢者・障害者介護サービス事業所 総括事業報告書**

令和5年度では、新型コロナウイルス感染症が5類となり、居宅支援事業所等へ訪問活動を積極的に行い新規利用者の獲得など行っていったが、利用者の利用自粛や体調不良による入退院も多く見られた。全事業所の事業活動収入として、前年より1,739千円の収入増となったが目標対比では154万円の減となった。

　事業所別にみると入所事業所では、ケアマンシオン創生の里では退所者が15名と多く待機者確保や入所までの連絡調整に時間を要した。また短期入所事業所においては、長期利用者の安定した利用が確保出来ず目標を達成することが出来なかった。

　通所事業所においては、新規利用者の獲得を積極的に行ったが感染症への不安が強く利用自粛や体調不良による入院等もあり体験利用・新規利用へと結びつけるまで時間がかかり収入の減少を招いてしまった。

　令和5年度に事業開始した就労継続支援事業所創生の里では、相談支援事業所への訪問等を積極的に行ったが、登録利用者が少なく目標には達することが出来なかった。取り組みとして、利用者のニーズに合わせた作業を考案しながら関係機関の訪問を行い、収穫した農作物は近隣のスーパーマーケットや利用者へ販売を行い好評を得ることが出来た。

　特別養護老人ホーム創生の里では、大分県介護ロボット支援事業への申請を行い令和6年3月中旬に「見守り支援システム」「通信システム」などの設置を行うことが出来た。今後は大分県社会福祉介護研修センターの伴奏支援を受けながらスムーズな導入を進めて行く。

　利用者へのサービスでは、感染症拡大防止対策として施設内でのマスク着用や面会制限を行いながら安心安全にサービスを行うことを心がけた。また規模を縮小し開催した秋祭りでは利用者のたくさんの笑顔を見ることが出来た。

　職員研修では、県内外の研修に参加や大分県高齢者福祉施設等実践者研究大会にて2事業所での取り組み発表を行うなど職員の資質向上に努めた。

　地域交流事業として南太平寺や賀来の市での盆踊り大会参加や賀来公民館祭りでは、就労継続支援事業所の利用者と一緒に焼き芋販売を行い来場者に喜んでいただいた。

　各事業所の具体的の報告書は別紙のとおり。